

バッハ演奏、なぜ日本語か？

私たちは、創設いらい半世紀にわたり、わが国におけるバッハ演奏のパイオニアとして、教会カンタータを中心に多様なジャンルのバッハ合唱曲を紹介しつづけていますが、国内の公演においては、われわれの母語である“日本語”による上演を原則としてきました。

なぜ日本語か？ それは私たちが日本語で考え、思い、感じているからです。言語の壁は、心のもっとも奥深いところでなされる芸術的共感をはばみます。訳詞演奏は、精神そのものである母語によってその壁を超えてみようとする一つの試みにほかなりません。

欧米では、それぞれの受容国の言語に翻訳してのバッハ作品演奏が普及しています。当合唱団は、欧米諸国の多くの市民合唱団と同様の立場、すなわち、意味の把握が歌詞の発音または聴取と同時になされることをもって声楽作品の本来的な表現あるいは鑑賞と捉えています。

バッハ音楽の精神的背景には、母語をとおして神と直接向き合おうとする、改革者ルターの思想が色濃く反映されています。またバッハにいたって西洋音楽は、個々のテキストの意味を形象化し、あるいはテキストの背後の理念や情調に音の形を与えることにより、ラテン語やドイツ語といった特定の言語の制約を超越するに至りました。

ですからバッハ音楽の中にあつては、どの言語圏の人々も安心して自分たちの母語に身をゆだねることができるのです。東京バッハ合唱団の日本語による演奏が、バッハ音楽の普遍性の証しとなることを確信しています。

2000年以降の公演では、ドイツの老舗ブライトコプフ社よりの底本提供を受けた日本語版楽譜に依拠することを原則としており、当出版譜による上演の普及を願っています（訳詞：大村恵美子、既刊：67曲・2015年現在）。

BACH-CHOR, TOKYO

since 1962



<http://bachchor-tokyo.jp/>

東京バッハ合唱団

創立 1962 年

東京バッハ合唱団は、教会カンタータを中心とした J. S. バッハ合唱作品の定期的な演奏と研究・紹介、わが国におけるバッハ日本語上演の啓蒙と普及を目的としています。

あなたも、日本語でバッハを歌ってみませんか？

< 団員募集 >

バッハの合唱曲を歌いつづけています。

資格や経験は問いません。

「日本語によるバッハ」を、ひとりでも多くの方に体験していただきたいと願っています。

■練習日/会場

- ・土曜日=15:30 - 17:30、荻窪教会（日本キリスト教団）
JR/地下鉄「荻窪」駅〔南口〕から徒歩8分、荻窪高校の東方向（〒167-0051 杉並区荻窪4-2-10）
- ・月曜日=18:30 - 20:30、目白聖公会
JR「目白」駅から徒歩5分、改札を背に左方面、目白通り沿い（〒161-0033 新宿区下落合3-19-4）
- ・どちらへの参加もご自由です。
いつでも見学にいらしてください。

■会費

入団金 3000円 団費 5000円（月額）
（児童・学生は団費無料、30歳未満は半額です）
（参加、見学は、事前にご一報のうえお越しく下さい）
（ホームページにて詳細をご覧になれます）

< お問合せ/連絡先 >

東京バッハ合唱団事務局

〒156-0055

東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

office@bachchor-tokyo.jp

Tel. 03-3290-5731

Fax: 03-3290-5732（専用）

ホームページ <http://bachchor-tokyo.jp/>

■東京バッハ合唱団

教会カンタータを中心に、モテット、オラトリオなど J.S. バッハの合唱作品を研究し、ソリスト・オーケストラとともに演奏する団体として、1962年大村恵美子の呼びかけで発足。日本語訳詞（大村訳）での上演を原則とする。ライプツィヒ聖トマス教会（1983年、わが国のコーラスとして初公演）などドイツ各地での公演も行ってきた。2012年創立50周年を迎え、バッハ4大作品（マタイ受難曲、ヨハネ受難曲、クリスマス・オラトリオ、ロ短調ミサ曲）の日本語連続演奏を行った（2011～2014年）。現在、第2の半世紀への歩みを始めたところ。

< 沿革 >

- ・1962年7月、フランス・ストラスブール大学・音楽院留学より帰国した大村恵美子によって「バッハ合唱団」設立（1985年「東京バッハ合唱団」に改称）、創設当時の指揮者は小林道夫氏。
- ・1979年10月、第45回定期演奏会より主宰者大村恵美子が常任指揮者を兼任、今日に至る。
- ・1983年8月、ドイツ民主共和国（東独）芸術公団の招聘で、ライプツィヒ聖トマス教会ほか4都市5会場で公演。その後2009年までに5回のドイツ巡演。
- ・2000年5月、ブライトコプフ版底本によるバッハ・カンタータ日本語版楽譜の刊行開始、既刊67曲。
- ・2012年7月、創立50周年を迎えた。記念企画「バッハ4大作品〔日本語〕連続上演」を開催（2011-2014）。
- ・2015年8月、福島県南相馬市で第112回定期演奏会（「3.11被災地訪問演奏」）開催。



第104回定期演奏会 2010/06/06（石橋メモリアルホール）



撮影・片岡航希

日本語訳詞によるバッハ合唱曲に取り組む

顔 オリジナル訳詞
大村恵美子さん 80
おおむら へみこ

で歌う東京バッハ合唱団を、1962年に創立。50周年記念事業として、3年がかりでマタイ受難曲などバッハの4大合唱曲に取り組む。12月3日には、ロ短調ミサ曲を東京・杉並公会堂で初演する。

「歌曲は原語が原則でしょ。うけれど、教会などで皆で歌う曲は、その国の言葉で歌うのが妥当じゃないでしょう。か。翻訳する際、特にフレーズの切れ目を意識して、歌いやすくする工夫をしている。子供のころ、日本語で西洋音楽を歌うのを当たり前に感じていた。「シューベルトの

訳詞があつて、ほかの曲もそうやって歌うことが出来るものだと思つてた」。それが、けに当時、バッハの訳詞が見当たらず残念だった。いずれ自らの手で日本語演奏をしよう心に決めた。

欧州留学から帰国後、日本語演奏を始めた頃は、今以上に偽物呼ばわりする風潮が強かったが、「一度聴いた人は何度でも聴きにやってくる」。熱心なファンに支えられ、演奏を続けてきた。「声楽曲の教会カンタータだけで200曲以上。死ぬまでやっていても大丈夫かなって」
（文化部 鷲見一郎）

読売新聞 2011/11/29

■指導：大村恵美子（主宰者/指揮者）

東京芸術大学楽理科・同作曲科卒業後、ストラスブール音楽院およびストラスブール大学で作曲・指揮・音楽学を学ぶ。在学中よりバッハのカンタータ演奏を志し、留学を終えると同時に1962年東京バッハ合唱団を創立、年数回の公演を実現させつつ今日に至る。現在までに、教会カンタータ、受難曲、オラトリオ、モテット、ミサ曲など、バッハ宗教合唱作品の代表作ほぼ全曲の上演用訳詞を完成。その中の多くを、自らの指揮で上演している。著書「バッハの音楽的宇宙」、「バッハ コラール・ハンドブック」他。訳詞「バッハ宗教歌曲集」、「バッハ・カンタータ〔日本語版〕楽譜全集」（刊行中、既刊67曲）。